

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点づくり

～ 中野ならではの個性を磨き、東京の新たな都市活動の拠点をつくる、にぎわいと環境の調和するまちづくり ～

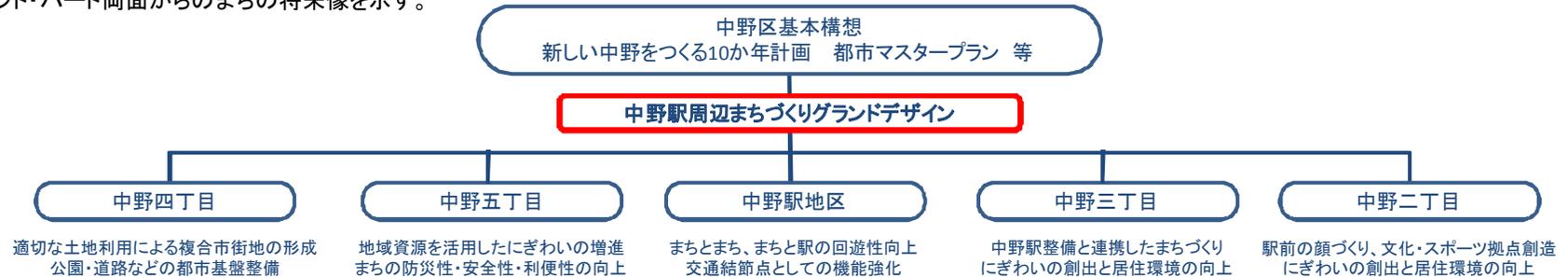
目次

1. グランドデザインとは ……2
2. まちづくりの基本的な考え方 ……4
3. 個性あふれるまちの魅力づくり ……6
4. まちをつなぐ動線づくり ……10
5. 新時代にふさわしい基盤づくり ……11
6. 展開ステップの考え方 ……14
7. 10年後のライフスタイルイメージ……15

1-1. 「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン」とは

○中野駅周辺のまちの将来像を示したもの

- ・区は、中野区基本構想において「持続可能な活力あるまち」となることを目指し、中野駅周辺はその中心に位置付けられている。
- ・中野駅周辺まちづくりグランドデザインでは、中野駅周辺のまちが区全体の活力を牽引するべく、まちづくりの方針と将来のあるべき姿を明らかにする。
- ・中野駅周辺まちづくりグランドデザインは、中野区基本構想や都市マスタープランに基づき、現在検討中の産業振興プログラムなど区の個別計画とも整合を図りながら、ソフト・ハード両面からのまちの将来像を示す。



* 区は平成18年12月に『中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.1』を策定。Ver.1策定以降、警察大学校等跡地開発については地区計画決定及び民間事業者が決定し、事業が具体的に進展、また中野駅地区整備についても、関係当事者を交え具体的な検討が深まっている。このようなまちづくりの動きを踏まえ、この度Ver.2として改定を行う。

1-2. グランドデザインの策定目的

○中野駅周辺のまちづくりについて、区民・民間事業者・行政が共通の目標・認識を持ち、まちづくりの機運を高める

- ・公民協働のまちづくりを進め、新しい時代にふさわしい都市基盤整備、新たな活力を生み出す拠点づくりのための指針とする。
- ・中野駅周辺で働く・住む・学ぶすべての人が、グランドデザインを通じてまちづくりに関する目標像を共有し、まちづくりの機運を共に高めて行く。

○中野駅周辺のまちづくりについて広く区内外にアピールし、中野の存在感・発信力を高める

- ・住宅都市から、業務・商業が適切に配置された活力あるまちへと進化する中野駅周辺を、グランドデザインにより広く発信して行く。
- ・中野駅周辺のまちづくりの取り組みを広く発信することにより、中野の存在感・注目度を高め、より良いまちづくりの循環を生み出す。

1-3. グランドデザインの策定範囲

○中野駅を軸に、中野二丁目、三丁目、四丁目、五丁目全域を含む約110haを対象とする

- ・中野駅を軸に北は早稲田通り、南は大久保通り、東はもみじ山通り、西は杉並区境までの、中野二丁目、三丁目、四丁目、五丁目全域をカバーする。
- ・南東部は第九中学校周辺(中野一丁目の一部)を含む。
- ・新たなまちづくりの影響と密接な関係にある住宅地についても駅周辺との連携を踏まえ検討することで、総合的な魅力と居住性を高め、まち全体のポテンシャルをより向上させる。

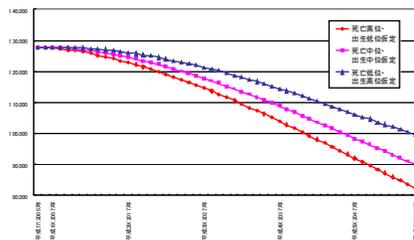


1-4. まちづくりがめざす30年後の中野

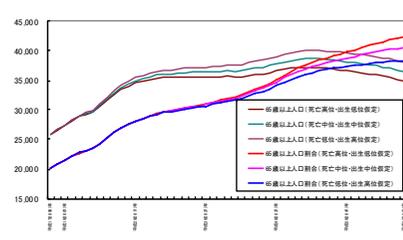
予測される30年後の日本

- ・日本は人口減少・高齢社会を迎え、平成67(2055)年に8,000万人～1億人弱の人口となるものと推計されているとともに、高齢化率は一貫して上昇し続け、高齢化率36.3～42.3%の超高齢社会をむかえている。
- ・全国的には大幅な人口減となるが、政治・経済・文化の中心である東京は、現在の傾向の延長線上で推移し、微増となると推計される。
- ・総人口に占める生産年齢人口の著しい減少により、年齢や性別等の別に関わりなく社会の担い手は多様化している。外国人労働力の導入についても議論がされている。
- ・H20.1.26 ダボス会議で示された、2050年までの世界全体の温室効果ガス排出を半減するという長期目標をふまえ、幅広い分野で温暖化防止対策が進んでいる。

人口推計

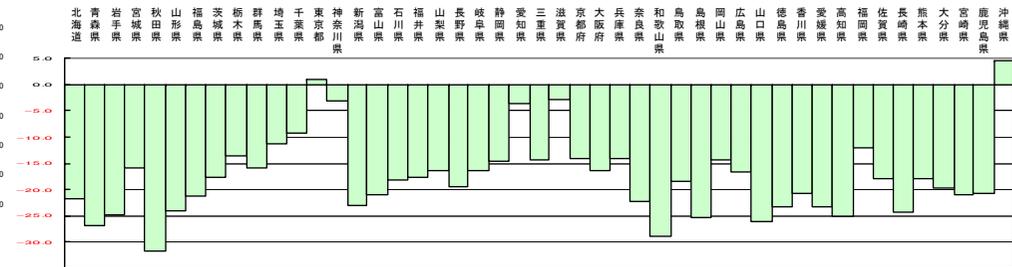


65歳以上人口及び高齢化率の推計



『日本の将来推計人口』(平成18年12月推計)より作成

30年後の都道府県別人口増減(対H17)



国立社会保障・人口問題研究所『日本の都道府県別将来推計人口』(平成19年5月推計)より作成

持続可能な活力ある30年後の中野

国際都市東京の新たな活動拠点となった中野駅周辺からのにぎわいの波及効果によって、中野区全域の経済活動が活性化するとともに、4つの戦略に基づく取り組みの推進によって、中野区は、働き・楽しみ・住みたくなる「持続可能な活力あるまち」となっている。

10か年計画の4つの戦略の取り組み

- ・**魅力ある活力に満ちたまち**
産業構造の変化に柔軟に対応した新たな都市型産業を誘導
- ・**地球環境にやさしい緑豊かなまち**
自然エネルギーの活用と省エネルギー機器の普及によりCO2を削減、公園等の公共施設の緑化、民間のみどりの誘導
- ・**子どもたちが元気いっぱい育つまち**
乳幼児や児童の一時保育などの支援策の充実による、安心して働きながら子育てできる環境の形成と教育環境の充実
- ・**健康で生きがいをもって暮らせるまち**
気軽に運動できる機会や環境が充実し、多様な社会参加の機会が用意され、高齢期まで生きがいを持って暮らせる環境の形成

中野駅周辺まちづくりでの取り組み

- ・中野駅周辺まちづくりにより、新たな都市機能と豊かなみどり、先端的業務空間、広域交流拠点、個性あふれる商業、良好な住宅地等、様々な顔が中野駅周辺にコンパクトに集積され、国際都市東京の新たな活動拠点を形成
- ・中野駅地区の再整備により、広域的な交通結節機能の強化や、それぞれのまちをつなぐ動線が整備され、中野駅周辺の回遊性が向上
- ・中野ならではの個性・活力の発信や、先端的な情報基盤の整備活用など、新たな時代にふさわしい中心市街地を形成し、区全体のまちづくりを牽引
- ・高齢者や障害者、子育て世代など誰もが快適に安心して暮らし続けられるモデル地区として、地域資源(医療機関、教育施設、商店等)と連携した情報基盤を構築

2-1. まちづくりが目指す姿

【中野駅周辺まちづくりが目指す姿】

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点となる

- ・中野駅周辺は、中野区全体にとっての顔であり、中心拠点である。
- ・中野駅周辺は、安全や環境と調和した、東京の新しい活動拠点として魅力を生み出す。
- ・中野駅周辺は、都心から多摩方面への結節点にあって、大都市東京の活力を生み出す新たな発信源となる。

広域視点での中野区

中野駅周辺のまちづくりにより、センター・コア再生ゾーンと多摩方面をつなぐ、東京の新たな活動拠点を形成する

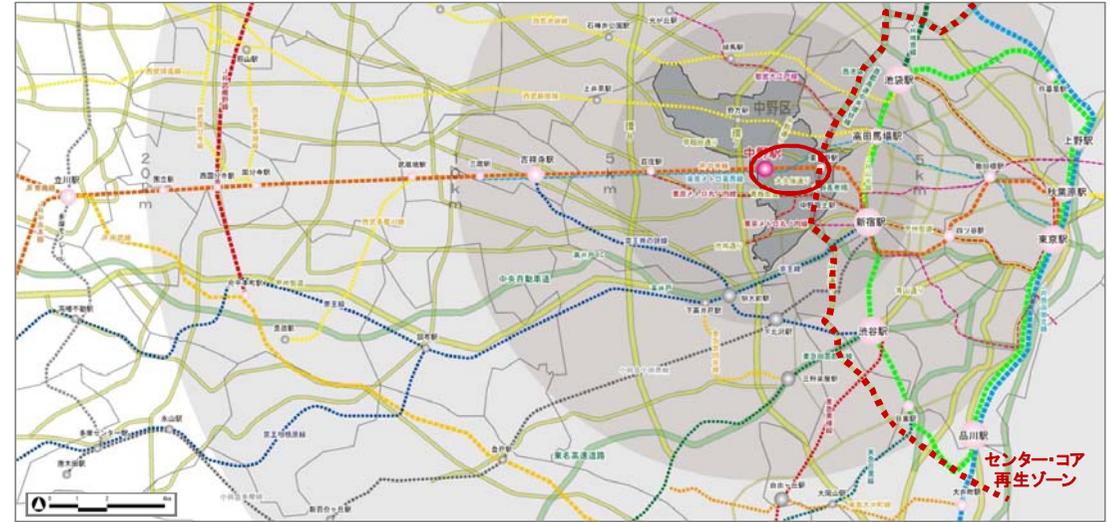
中野駅周辺は日本経済の中核を担う東京駅周辺から約10km、副都心の新宿駅周辺から約4km、多摩の中心である立川駅周辺から約25kmに位置している。また、中野駅は東京の東西の大動脈である中央線の主要駅である。

中野駅周辺は、都心から多摩方面にかけ、交通アクセスに非常に優れた交通の結節点であり、東中野、中野坂上とあわせて、多摩方面からセンター・コア再生ゾーンへ向けた、賑わいの玄関口を形成している。

中野駅周辺のまちづくりが進むことで、通過結節点的存在から、自ら集客・発信する東京の新たな活動拠点を形成していく。

センター・コア再生ゾーン：我が国の政治・経済・文化の中核としての役割を果たしているゾーン。
(東京都『東京の都市づくりビジョン(改定)』2009年7月)

都心から多摩方面への結節点となる中野



中野区における中野駅周辺

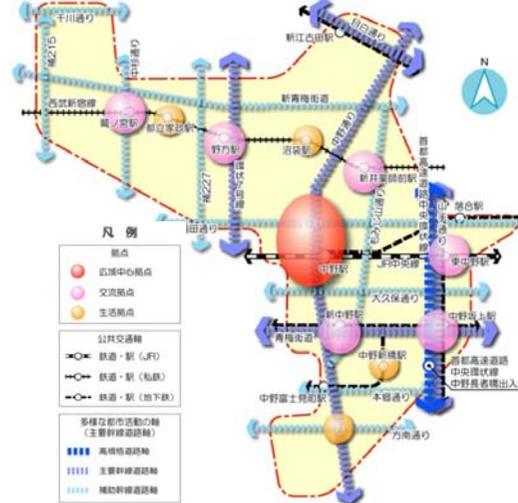
中野駅周辺は区内の広域中心拠点、そして東京の新たな活動拠点として区全体の活力・まちづくりを牽引して行く

中野駅周辺は中野区における唯一の広域中心拠点として、中野の玄関口の交通結節点機能を強化し、さらに商業・業務、文化その他広域性を有する諸機能の集積を強化することで、東京の新たな活動拠点を形成する。

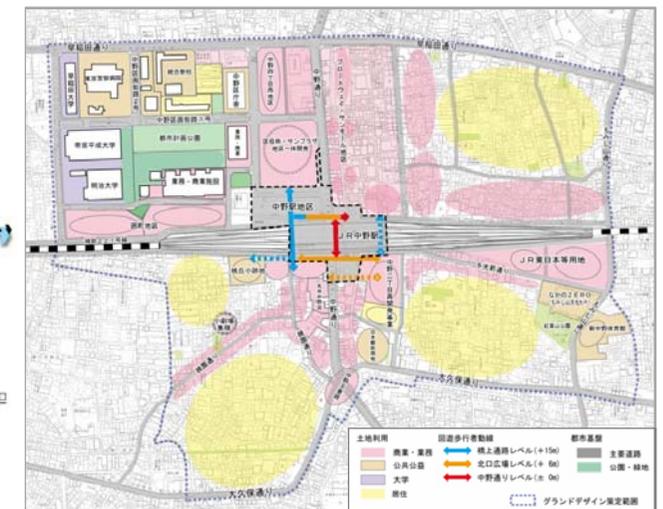
中野駅周辺以外の交流拠点や生活拠点と役割を分担し、相互に連携することで、中野区全域での区民生活や企業活動を支える基盤を形成する。

中野駅周辺のまちづくりが進むことで、多様な都市機能が集積し、個性的で新しい魅力を発信する中野の顔、そして東京の新たな顔となる。

基本的なまちの構造



中野駅周辺まちづくりランドデザイン策定範囲



2-2. まちづくりの基本目標

【中野駅周辺まちづくりが目指す姿】

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点となる

【まちづくりの基本目標】

中野の地域経済やまちの活性化

中野駅周辺のまちづくりが区全体の活力を牽引すると共に、東京の新たな活動拠点となることを目指す

まちの個性の発揮と求心力、集客力の向上

中野駅周辺のまちが各々の個性を磨くことで集客力を高め、多様な魅力の集積により、まち全体の求心力・回遊性を向上させる

働き・楽しみ・住みたくなるまちの実現

中野駅周辺のまちづくりを通じて、公民協働の産業育成・にぎわいづくり等、様々な人が集い、暮らし、活動する場と機会を拡充する

防犯・防災性能が高く環境と調和するまちの実現

中野駅周辺のまちづくりを通じて、これからの時代にふさわしい安心安全、環境・快適性、利便性を備えた中野ならではの基盤を整えて行く

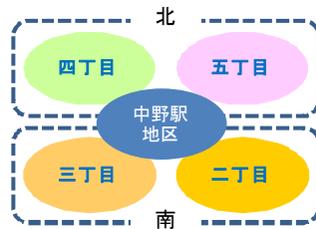
2-3. まちづくりの視点

【まちづくりの視点】

誰もが誇れる都市基盤を築くと共に、中野ならではの魅力を加えた付加価値の高いまちづくりを推進する

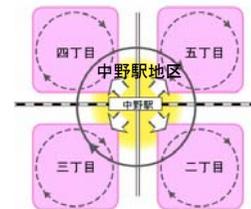
1. 個性あふれるまちの魅力づくり

- 中野駅周辺のまちを四つのゾーンで捉える
- 各ゾーンの個性を磨くことで、まちの集客力・集積力を高める

中野二丁目、三丁目、四丁目、五丁目の
各々の将来像を示します

2. まちをつなぐ動線づくり

- 異なる魅力を楽しむために、まちとまちの回遊を生み出す
- 新たな回遊や活力を相乗的に繋ぐ要としての動線の整備を行う

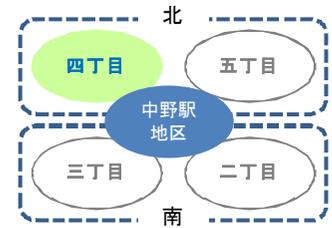
中野駅地区の将来像と回遊イメージを
示します

3. 新時代にふさわしい基盤づくり

- 新しい時代にふさわしい都市基盤を整備し、誰もが誇れるまちになる
- 活力やにぎわいを生み出す機能、環境アメニティ、先端的な情報基盤などを形成する

中野駅周辺全体の活力・環境・情報基盤の
将来像を示します

3-1. 中野四丁目



《地区の現況》

- ・警察大学校等跡地開発では、民間事業者を中心として業務、商業、大学、住宅等の複合開発が進められようとしており、まちが新たに生まれ変わろうとしている。
- ・警察大学校等跡地には豊富な緑やオープンスペースがあり、それらを開発にあわせて貴重な環境インフラとして活用することが必要とされている。
- ・中野区役所一体は広域避難場所として位置づけられており、警察大学校等跡地開発後は防災拠点としての機能が求められている。
- ・中野サンプラザは文化複合施設として全国的に認知された象徴的な施設であるが、再整備に向けた検討をはじめている。

《地区のめざすべき姿》

先端的な都市活動拠点

これまで閉ざされていた大空間がまちにひらかれ、サンプラザ・区役所の一体的再整備とあわせ、新しい価値と可能性を生み出す

- ・警察大学校等跡地開発や区役所・サンプラザ地区一体整備により生みだされる都市機能と豊かな緑を軸に、中野の新しい魅力拠点となっている。
- ・新たに進出する大学等との産学公連携、大規模な業務集積、集客機能、交流機能、先端的な知識・技術など、これまで中野になかった魅力を発揮している。
- ・駅に近い立地でみどりあふれる約3haの広場を有し、先端的な施設と潤いのある空間が融合している。
- ・新しい時代のスタンダードとなる環境配慮、ユニバーサルデザイン、高い防災性、ユビキタスマちづくりに取り組んでいる。

《中野四丁目地区の将来像》

□警察大学校等跡地地区

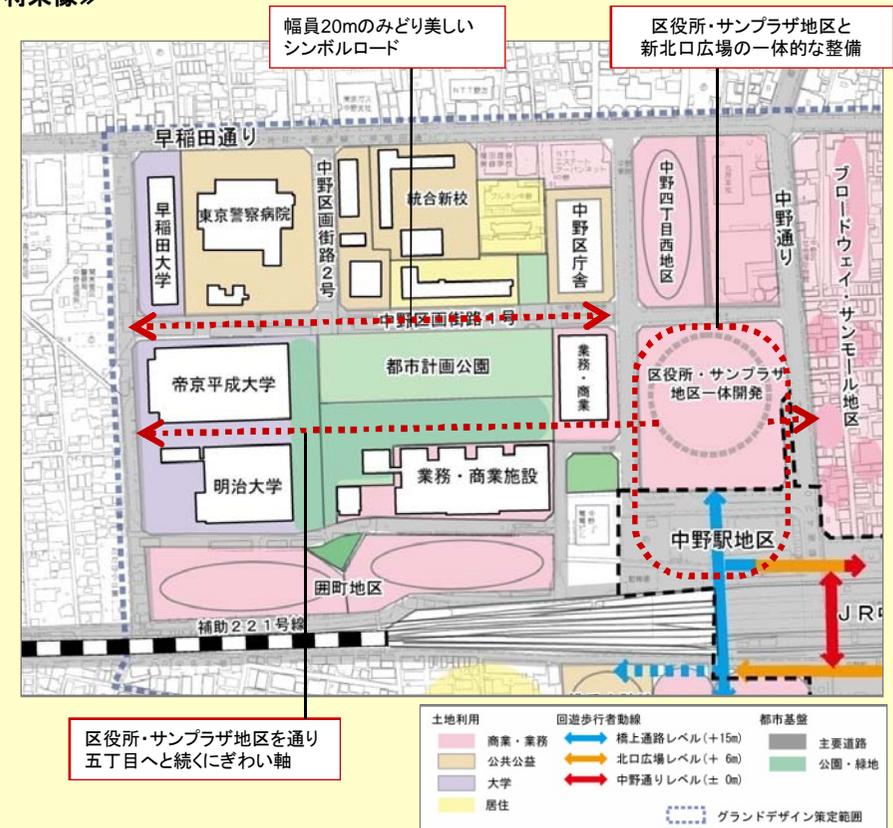
- ・みどりあふれる約3haの広場を中心とする潤いの空間と、先端的な業務施設、教育施設等が調和し、様々な人が集い活動している。
- ・街区を貫く美しい並木道や豊かな森がまちの新たな景観スポットとなり、人やにぎわいの流れをつなぐまちの軸となっている。
- ・産学公連携により質の高い人材を育成するための場と機会が確保され、区の産業を担う人材が生み出されている。また、そうした人材が産業界のネットワークの核となり、区を牽引する活動が行われている。
- ・タウンマネジメントにより、まちのプロモーション、起業支援やビジネスマッチングを始めとしたビジネス振興、まちや施設の維持管理などが一体的に行われ、持続的ににぎわいが創出されている。

□区役所・サンプラザ地区

- ・駅前広場を含めた一体的な再整備により、東京の新たなランドマークとして、より広域的な集客力を備えたまちの顔となっている。
- ・駅と区役所・サンプラザ地区をつなげる立体的な歩行者ネットワークが形成されている。
- ・警察大学校等跡地からつながるにぎわい軸を五丁目や南口方面までのばす要となり、中野駅周辺のまち全体へにぎわいを広げる中心地区となっている。
- ・人々が集い交歓する交流・イベント広場や、コンベンション、教養文化、娯楽などの都市機能が強化され、商業や業務系機能と共に複合的な魅力を備え、幅広い人々が多様な活動を楽しめる東京の新たな顔となっている。

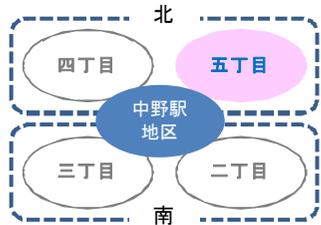
□囲町地区、中野四丁目西地区

- ・再開発事業や共同化などにより、防災性の高い、快適で潤いのあるまちづくりが進んでいる。
- ・囲町ではまちづくりの進展とあわせて、補助221号線の整備も行われている。



3-2. 中野五丁目

《地区の現況》



- ・ブロードウェイやサンモールに象徴されるアニメ・マンガ文化や特色ある商業施設・飲食街が存在している。
- ・駅直近は建物老朽化や木造建築物の連担、接道条件の悪さ等により、防災上脆弱な環境となっている。
- ・歩行者、自動車の交通ネットワーク上も課題が多く、特に中野駅からの歩行者動線を受け止める駅前広場機能が能力不足である。
- ・住宅ゾーンでは良好な住宅地が展開しているが、一部、防災上問題がある住宅地も存在している。

《地区のめざすべき姿》

個性豊かな交流活動拠点

“中野らしさ”の原点である親しみやすさや個性的なにぎわいに磨きをかけ、
これまでもこれからも独自のパワーを発信して行く

- ・サンモール、ブロードウェイを軸とした商業、マンガ・アニメ文化、若者の生み出す芸能の発信力など現在の中野パワーの源に、より磨きがかかっている。
- ・商業エリアには、防災性・安全性の確保や環境対策など商業環境を向上させるための基盤が整い、親しみやすさや個性的なにぎわいなど、まちの魅力がより一層高まっている。
- ・後背の住宅地については、繁華街と隣接しながらも利便性と安全性・快適性が保たれた居住環境が形成されている。

《中野五丁目地区の将来像》

□サンモール・ブロードウェイ地区

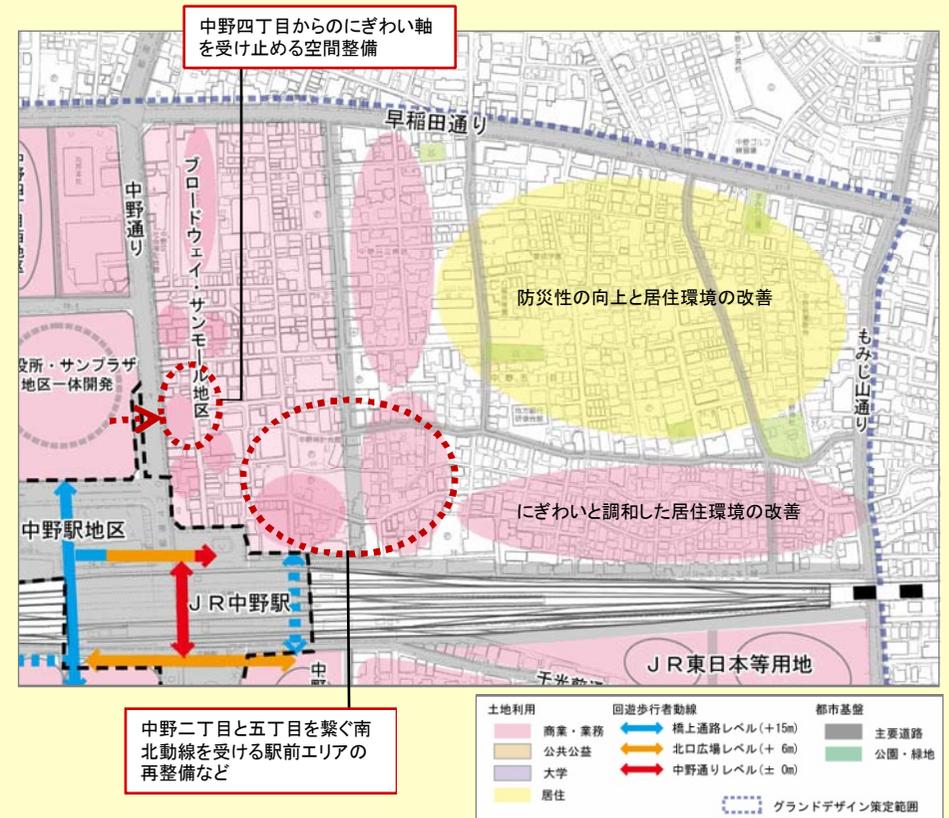
- ・小広場等の防災施設や共同荷捌き施設等が整備され、利便性・賑わい・活気を高めながら、安全性と商業環境としての機能強化が図られている。
- ・中野四丁目とにぎわい軸でつながり、地区全体の人や活力の循環がより一層高まっている。
- ・独自のマンガ・アニメ文化の発祥の地として、観光による集客が促進されている。
- ・マンガ・アニメ文化やお笑い・演芸といった若者が生み出す文化など、中野ならではの文化発信力を活用したにぎわいづくりのプロモーション活動が実施されている。

□中野五丁目線路沿い地区

- ・道路の拡幅とあわせた防災まちづくりが進められ、安全性と土地の適切な高度利用が図られている。

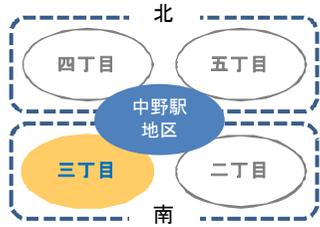
□住宅地区

- ・後背の住宅地ゾーンでは、道路拡幅等により居住環境が改善し、繁華街と隣接しながらも、まちの防犯・防災性が強化されている。



中野二丁目と五丁目を繋ぐ南北動線を受ける駅前エリアの再整備など

3-3. 中野三丁目



《地区の現況》

- ・小劇場の集まりや住宅街に溶け込んだ店舗など、南口ならではの文化性や若者の来街を促す要素が育っている。
- ・旧桃丘小学校は保育園の仮園舎など暫定的な利用に供している。
- ・中野三丁目には閑静で良好な住宅地が存在している。
- ・歩行者、自動車の交通ネットワークに課題があり、中野三丁目には中野駅からの歩行者動線を受け止める駅前広場機能が求められている。

《地区のめざすべき姿》

新しい個性を生み出す文化発信拠点

文化的なにぎわいと暮らしが融合した、南口ならではの個性を発信する

- ・小劇場の集積など、三丁目ならではの住宅地とにぎわい要素の融合を活かし、文化性と暮らしが共存している魅力が高まっている。
- ・桃丘小学校跡を含む再整備などを通じ、駅の西側に繋がる歩行者空間が整備され、南口全体の回遊性・ポテンシャルが向上している。
- ・住宅地については良好な居住環境の価値がより高まるよう適切な整備が進み、調和のとれたまちづくりが図られている。

《中野三丁目地区の将来像》

□桃丘小学校跡および駅直近地区

- ・桃丘小学校跡地におけるまちの文化、広域交流拠点が形成されている。
- ・中野三丁目駅前地域のまちづくりが行われ、交流・にぎわいの拠点となる駅前歩行者系広場空間が整備されている。
- ・演劇・芸術関係のインキュベーション施設をきっかけとして、区内に人材のネットワークが広がり、区内の演劇・芸術文化の拠点地域となっている。

□桃園通り沿道および丸井周辺地区

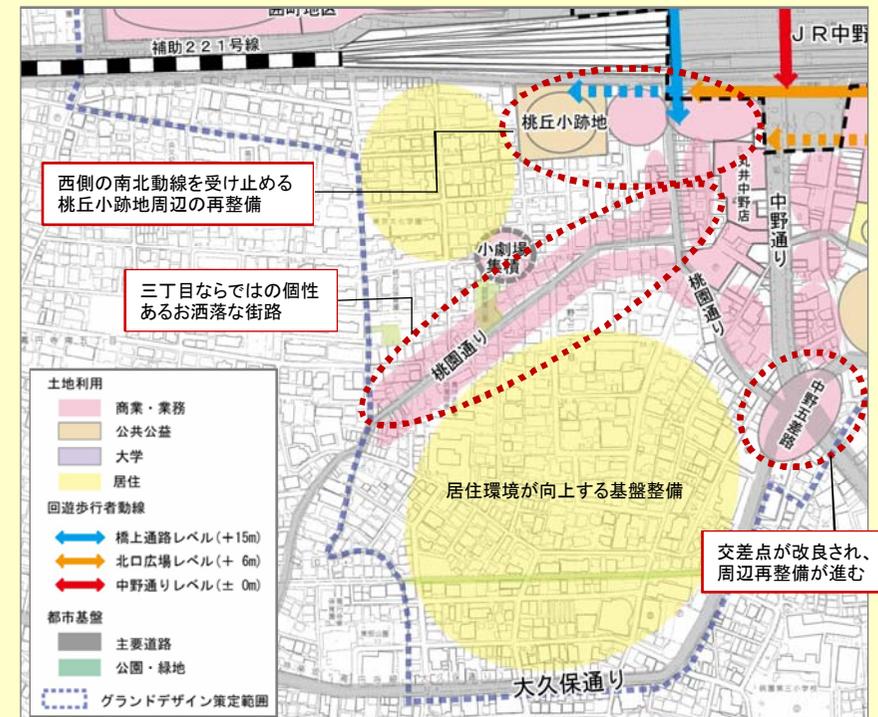
- ・まちづくりの進展による歩道拡幅など、歩行者動線環境が向上している。
- ・劇場が連携したイベント開催、エンターテインメント機能が強化されている。
- ・演劇・芸術など文化性を活かしたにぎわいの創出と、魅力ある個店の誘導により商店街が活性化している。
- ・中野二丁目・三丁目とあわせた文化集積等の観光資源が情報発信されている。
- ・商店街の店舗構成の再編や個性ある店舗の誘致など、商店街というまとまりで戦略的に経営を行っていくための仕組みが整えられ、活気ある商店街の革新が図られている。

□住宅地区

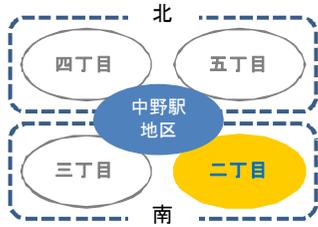
- ・豊かな緑化空間を創出し、良好な街並み形成により居住環境が向上している。
- ・駅直近のまちづくりにより、駅へのアクセスが向上している。

□五差路周辺地区

- ・交差点事業が完了し右折レーンが整備され、中野通り及び大久保通りの交通負荷が軽減している。
- ・五差路周辺の再整備が進み、業務商業などの充実が図られている。



3-4. 中野二丁目



《地区の現況》

- ・なかのZEROやみどり豊かな紅葉山公園が、南口の文化的シンボルとなっている。
- ・中野二丁目再開発事業により、まちに新たな魅力要素を生み出す動きがある。
- ・将来有望な大規模用地が存在している。
- ・中野二丁目には閑静で良好な住宅地が存在している。
- ・歩行者、自動車の交通ネットワークの整備が十分ではなく、緊急車両の通行や狭隘道路の整備など改善すべき点がある。

《地区のめざすべき姿》

暮らしを彩る文化活動拠点

文化、スポーツ活動など、生活を豊かに彩るライフスタイルを発信する

- ・なかのZERO(もみじ山文化センター)や新体育館など公共施設の集積が、文化発信拠点として南口ならではの個性を発揮している。
- ・再開発事業や大規模用地の再整備等にあわせ、個性的な商業、業務、サービスなど南口の魅力が強化されている。
- ・二丁目の再開発事業の進捗とあわせた駅前広場の整備等を通じ、南口全体の回遊性・ポテンシャルが向上している。
- ・住宅地については良好な居住環境の付加価値がより高まるよう適切な整備が進み、調和のとれたまちづくりが図られている。

《中野二丁目地区の将来像》

□中野二丁目再開発地区および駅前・中野通り周辺

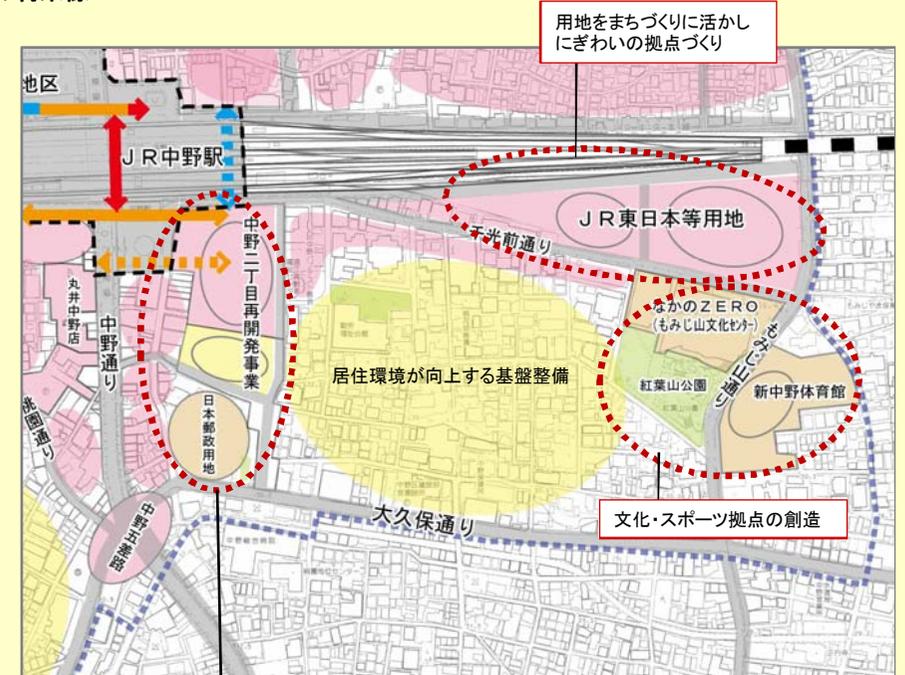
- ・中野二丁目の業務商業等の核となる駅前再開発事業が完了し、南口の新たな活動拠点となっている。
- ・再開発事業と連携した南口駅前広場が再整備され、快適な駅前空間となっている。
- ・再開発事業の隣接街区も整備が進み、まちの集客機能が高まっている。
- ・再開発事業により、駅と住宅地区とを結ぶユニバーサルデザインに配慮した歩行者ネットワークが整備されている。
- ・商店街の店舗構成の再編や個性ある店舗の誘致など、商店街というまとまりで戦略的に経営を行っていくための仕組みが整えられ、活気ある商店街の革新が図られている。

□もみじ山地区および千光前通り周辺

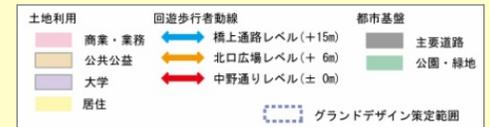
- ・第九中学校跡に新たな体育館が完成し、もみじ山地区における文化スポーツ等拠点が形成されている。
- ・もみじ山通りが拡幅され、地区の交通動線機能や防災性が高まっている。
- ・演劇、音楽、ダンスなどの文化芸術やスポーツなど、活動的な地区のイメージを活用したプロモーション活動が行われ、まちの魅力が区内外に発信されている。
- ・地区のイメージに合った個店の誘導により商店街が活性化している。
- ・中野二丁目・三丁目とあわせた文化集積等の観光資源の情報が発信されている。

□住宅地区

- ・豊かなみどり空間の連携、良好な街並み形成により居住環境が向上している。
- ・再開発事業や周辺まちづくりにより、駅へのアクセスが向上している。
- ・生活道路の拡幅等により防災性が向上している。

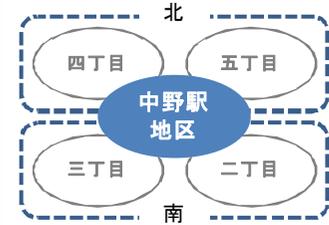


再開発事業による新たな顔づくりと、隣接街区の再整備



4-1. 中野駅地区の考え方

《地区の現況》



- ・地形的なまちの分断や交通施設の不足等、都市の交通結節点として様々な課題を抱えている。
- ⇒既存の南北駅前広場の面積及び必要な機能不足
- ⇒地形高低差と鉄道による市街地の南北・東西分断
- ⇒中野通りや周辺道路の歩行者空間・動線の不足
- ⇒駅及び駅周辺におけるバリアフリー化の不十分
- ⇒周辺開発と一体的な景観形成やオープンスペースの確保

《地区のめざすべき姿》

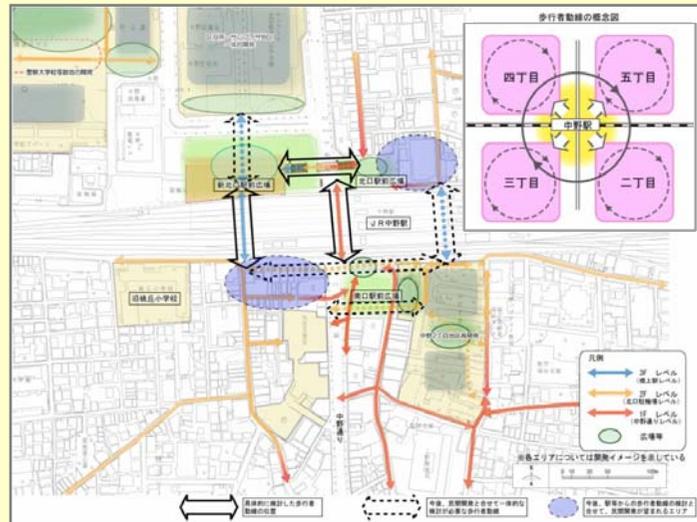
駅とまちが融合する魅力的なにぎわい拠点

中野駅地区は、様々な活力を相乗的に広げて行く要として
まちと駅、まちとまちをつなげている

- ・交通施設の集約化、わかりやすさと乗り換えの利便性が向上し、ユニバーサルデザインによる整備がなされている。
- ・周辺と一体となった立体的な歩行者ネットワークが形成されている。
- ・駅前広場と商業施設との連携や歩行者広場の確保により、賑わいが創出されている。
- ・中野区の玄関口としてみどりやうるおいが感じられる場が創出されている。
- ・回遊の要となる駅としての機能がより強化され、周辺のまちが相互に価値を高めている。

《中野駅地区の将来像と回遊イメージ》

中野駅地区は、まちとまち、まちと駅とを繋ぐ活力の要として新たな東西・南北動線が整備され、歩行者動線や交通結節点としての機能が強化されている。



改札口配置及び新たな南北通路の考え方



- 新たな南北通路
 - ・中野通り西側の橋上レベルに新たな南北通路及び改札口を配置
- 既存駅舎
 - ・現北口駅前広場に面するよう、北口改札を改修
- 中野通り東側歩道
 - ・現在のバス乗降場を移設し、幅員を拡幅

駅前広場の考え方



- 新北口駅前広場:
 - ・多層構造による交通施設の集約
 - ・区役所サンプラザ地区と機能的に連携した広場空間
- 現北口駅前広場: 歩行者系広場への改修
 - ・新北口、北口駅前広場はデッキにより接続
- 南口駅前広場: 周辺まちづくりと合わせた改修
- 西側新改札口と中野三丁目との接続:
 - ・駅前広場機能の確保

5-1. 活力・賑わい：中野駅周辺に展開される“活力・にぎわい”を業務、交流、産業の視点で捉える



活力・にぎわい

- ・区民・就業者・来街者等にぎわう新たな広域交流拠点が形成されている。
- ・都市型産業等の立地が集積し、中野ならではの産業が育成されている。

高度な業務機能の導入

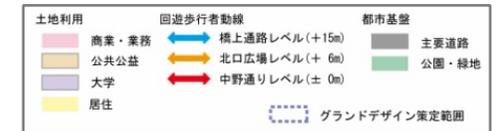
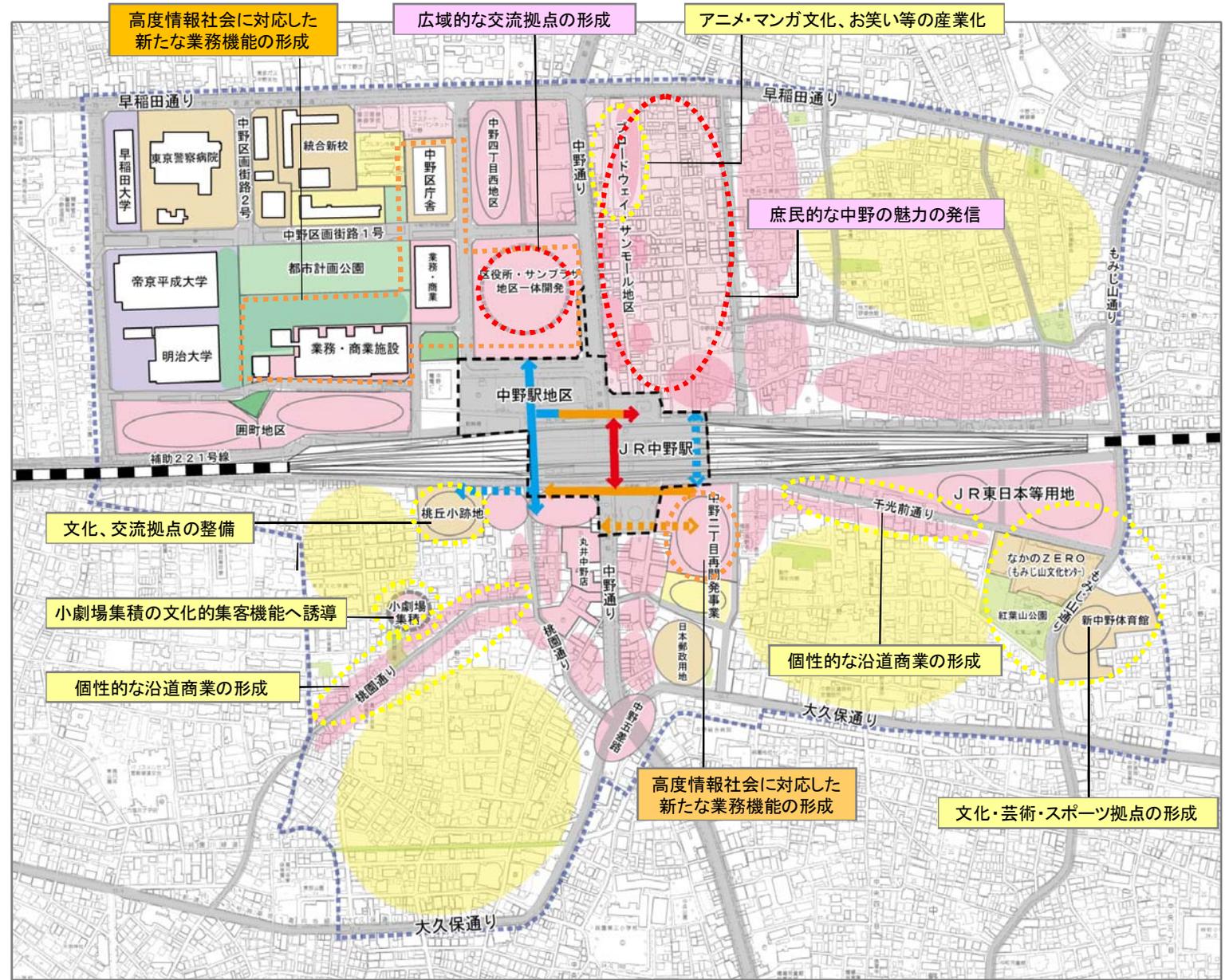
- 先端技術を導入し、高度情報化社会に対応した業務機能の誘導
- 駅至近の好立地を活かした新たな業務機能の誘導

広域的な交流機能の拡充

- 中野サンプラザの全国的なブランド力を活かし、再整備によってコンベンション等の広域的な交流機能を拡充
- 庶民的な飲食店街の集積や、アニメ・マンガ文化、お笑いといった中野の魅力を発信し、広域的な集客力を強化

中野ならではの産業の育成

- アニメ・マンガ文化、お笑い、演劇、ダンス等の集積を活かした企業の育成
- 駅周辺に点在する文化的な集客機能の発展を誘導し、駅とこれらを繋ぐ沿道の個性的な商業を育成



5-2. 環境・アメニティ：中野駅周辺に展開される“環境・アメニティ”を環境負荷、みどり、防犯・防災、景観の視点で捉える



環境・アメニティ

- 環境負荷の少ない、みどり豊かな潤いのある快適なまちが形成されている。
- 東京の新たな活動拠点にふさわしい美しい都市景観が創出され、まちとしての価値が高まっている。
- 交通結節点機能や回遊性が強化され、駅とまちが一体となっている。
- 歩行者や自転車にも安全なアクセス動線が整備されている。

環境負荷の軽減

○大規模開発にあたっては、建築物の性能、みどり空間の創出、施設運用面でのCO2削減など、総合的な環境配慮対策を実施

潤いを形成する緑化の実施

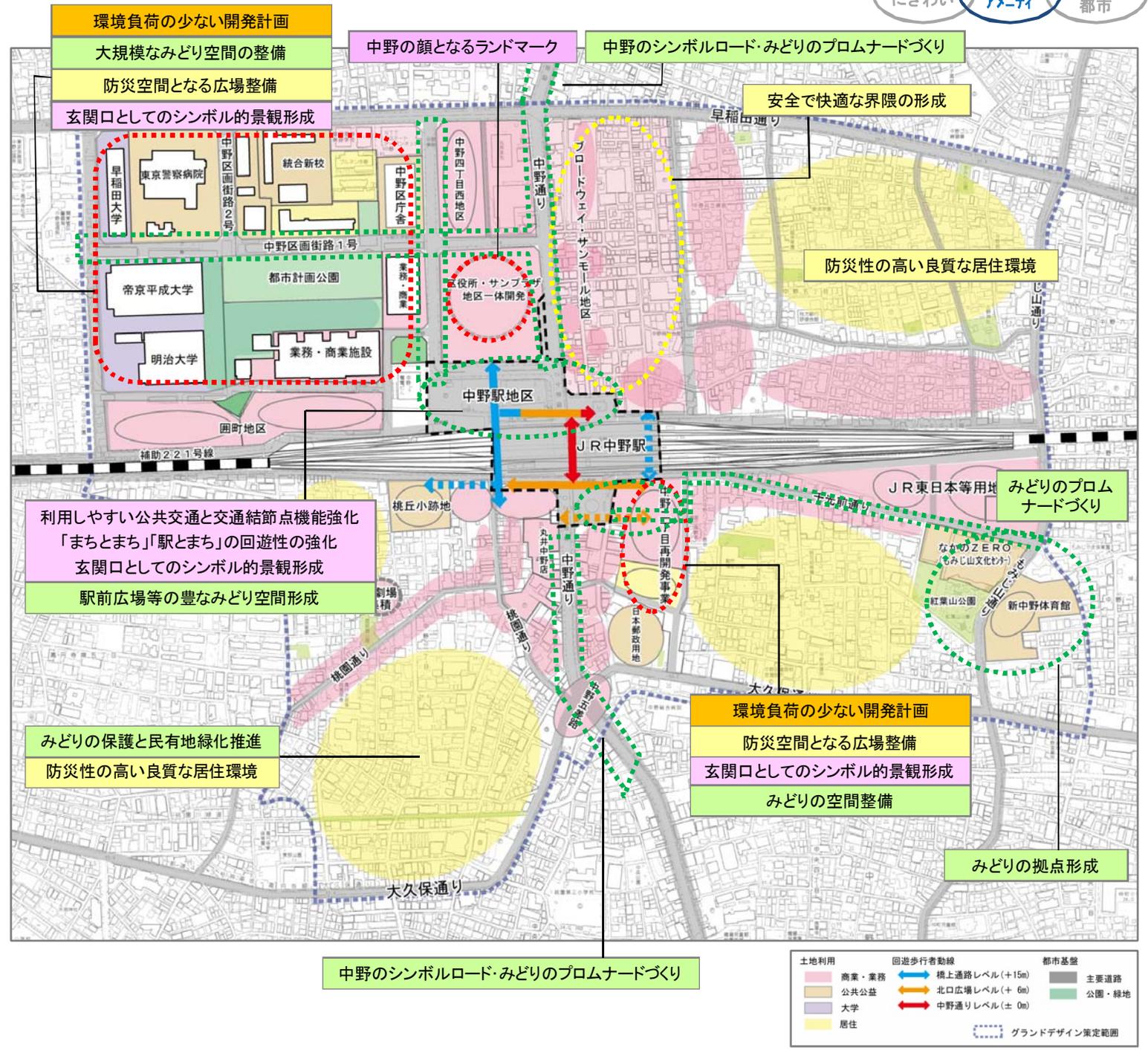
○大規模開発や交流拠点における、みどりの空間整備
○民有地の緑化推進とみどりの保護
○主要道路のシンボルロード化、みどりのプロムナード形成

防犯・防災機能の向上

○大規模開発に伴う防災空間の整備
○住宅地での消防活動困難区域の解消や小規模防災空間の確保等による防災性の向上
○安全安心で快適なまちの実現

新たな活動拠点にふさわしい景観形成

○都心と多摩方面を繋ぐ東京の新たな活動拠点に相応しいシンボリックな景観の形成
○中野の顔となるランドマークの形成
○交通結節点としての機能の拡充
○景観や機能向上とあわせ、誰もが快適に利用できるユニバーサルデザインの導入



5-3. 情報先端都市：中野駅周辺に展開される“情報先端都市”の将来像を、情報技術によって向上する利便性の視点で捉える



情報先端都市

- ・誰もが簡単にICTを利用でき世代や地域、国籍を越えたコミュニケーションがスムーズに行われている。
- ・ユビキタスな基盤整備により、高齢者や障害者も安心して暮らせるサービス等がより充実する。
- ・u-Japan政策に合致する独自のサービスや新しい社会システム等が生みだされ、誰もが等しく利便性や快適性を享受できている。

安全安心の形・質

- 事故防止や歩行者ナビゲーション、緊急車両の運行支援等の交通システムが充実、誰もが安心して活動できる
- 医療拠点と連携した地域の医療・介護システム等により、安心な一人暮らしが可能となる
- 地域の情報基盤を活用して、離れていても家族と繋がり、居場所を確認できる

暮らし方・暮らしの質

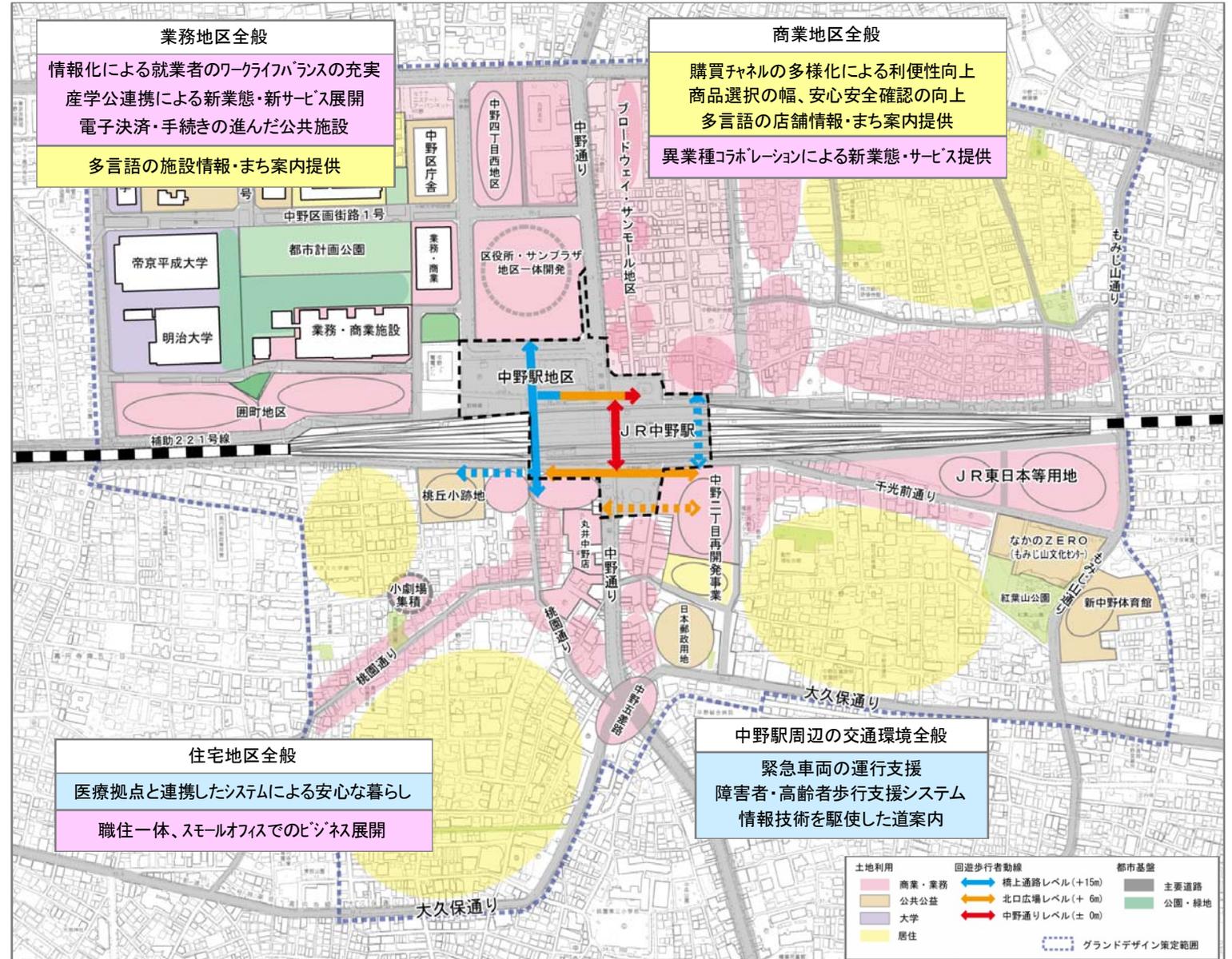
- 施設の情報基盤を活用して、食品等の流通経路を確認するなど、安心安全を個人でコントロール
- 対面による販売や、時間・場所を選ばない買物・サービス等の組合せにより、個人の生活にあった、より快適でスマートな活用ができる
- 多言語翻訳サービス等が身近になり海外の人や物・コトの関わりが拡充する

働き方・ビジネス環境の質

- 時間や空間を超えた快適なコミュニケーションで仕事の効率化、グローバルなビジネスが身近になる
- 企業間、店舗間の柔軟なコラボレーションが実現し、様々なサービスが生みだされる
- 個人の発想が形になりやすく、スモールオフィス等から大きな可能性が広がる

関連用語の解説（出典：総務省情報通信政策）

- ICT : Information and Communications Technology = 情報通信技術
- ユビキタスネットワーク社会 : 「いつでも、どこでも、誰でも」ネットワークに簡単につながり、あらゆる人や物が結びつく、ICTが日常生活の隅々まで普及し、簡単に利用できる社会
- u-Japan : e-Japan (情報化促進) から u-Japan へ、ユビキタス (Ubiquitous) の UI に加え、ユニバーサル、ユーザー・オリエンテッド、ユニークの三つの成果の U を表す (ユビキタス・ネットワーク・ジャパン) Universal (ユニバーサル): 人に優しい心と心の触れ合い、User-oriented (ユーザー): 利用者の視点が融け込む、Unique (ユニーク): 個性ある活力が湧き上がる



6. 展開ステップの考え方 : まちづくりが進み、まちが成長するイメージを3段階の時間軸で捉える

Ⅰ期: 軌道にのせる(0~10年)

まちが大きく成長する第1段階として、今後10年程度を想定する。まちの大きな骨格がほぼ完成し、人々の活動・回遊が一定の軌道に乗っている。

- ・北口では四丁目の警察大学校等跡地開発が完了し、現北口駅前広場整備・中野通りを渡る歩行者動線・駅の西側に新たな南北通路と駅施設が完成する。また、囲町地区もまちづくりが進んでいる。
- ・南口では丸井の建替えや高層住宅、二丁目再開発事業が完了し、南口の駅前拠点整備が進んでいる。また、五差路の交差点改良が完了し、周辺のまちづくりが進んでいる。さらに、体育館移転による文化・芸術・スポーツ拠点の形成が進んでいる。
- ・まちのにぎわいづくりのための様々なイベントや桃丘小学校跡を活用した演劇、文化表現活動が行われている。
- ・若い起業家たちが都市型産業を興し、挑戦する場と機会が用意され、ICT・コンテンツを中心としたビジネス資源が中野に集まり始めている。

Ⅱ期: 発展させる(11~20年)

軌道にのった第1期以降の10年程度を想定する。駅を軸とする回遊の幅が広がり、駅周辺の可能性が大きく発展している。

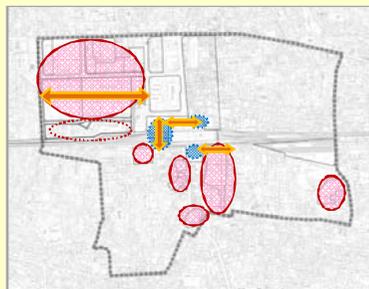
- ・北口では新北口駅前広場及び区役所・サンプラザの一体的整備、四丁目西地区、囲町地区や補助221号線整備が完了、五丁目も整備が進み、人の流れが四丁目・五丁目商店街、南口まで広がっている。
- ・南口では、三丁目地区にも新たな拠点が整備され、二丁目の文化・芸術・スポーツ拠点との東西の繋がりが強化されている。
- ・文化的な活動とビジネス・商業活動とが有機的に繋がり、まち全体がメディア化し、情報発信を続けている。

Ⅲ期: 成熟させる(21~30年)

第2期以降の概ね10年程度を想定する。中野駅を軸に、南北東西の動線がそれぞれにまちと融合し、快適な回遊空間と、個性を活かしたまちの姿が現れている。

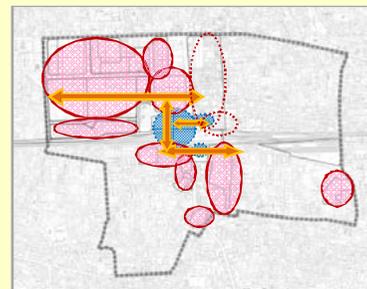
- ・北口では駅前再開発により新たな拠点が生まれ、駅東側の南北動線が繋がりと、五丁目線路沿いのまちづくりも進んでいる。また、五丁目商店街も再整備が進んでいる。
- ・南口ではJR東日本用地の有効活用などにより、もみじ山エリアの拠点化が進んでいる。

【Ⅰ期】



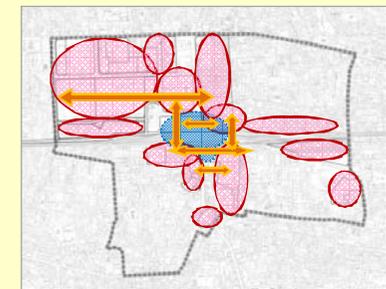
- 警察大学校等跡地開発完了
⇒公園・道路供用開始、大学、業務施設等竣工
- 中野駅地区整備
⇒西側南北通路、北口・南口駅前広場整備完了
北側東西デッキ整備完了
- 中野二丁目再開発事業、五差路交差点事業完了
- 中野体育館移設完了
- 中野三丁目桃丘小学校利用改修
- 囲町地区再整備着手

【Ⅱ期】



- 新区役所庁舎の竣工
- 桃丘小学校跡地再整備完了
- 中野三丁目駅直近地区再整備完了
- サンプラ・区役所一体整備完了
- 四丁目西地区再整備完了
- 囲町地区再整備完了
- 中野駅北口駅前再開発着手
- 中野駅地区整備
⇒南口東西動線整備

【Ⅲ期】



- JR東日本用地の再整備完了
- サンモール・ブロードウェイ再生
- 5丁目線路沿い地区再整備完了
- 中野駅北口駅前再開発完了
- 中野駅地区整備
⇒東側南北自由通路整備完了

中野駅を利用したり、駅周辺で働くひとびと

- 新しくできたオフィスのコンテンツ産業に勤めている。みどり豊かで快適な職場環境で働いており、隣接の大学の学生や研究者、近くのスモールオフィスで働く異業種の人たちとの交流で生まれたいろいろなアイデアを新しいビジネスに発展させている。
- 駅に近いオフィスで働く営業マン。どこへ出るのも便利で効率的な営業活動ができる。仕事帰りに職場仲間とよく飲みに行くが、顧客を案内できる粋な店も駅周辺には多い。
- 中野駅から都心のオフィスに通勤している。新しくきれいな駅前広場やデッキ、駐輪場などが出来て、駅が使いやすくなった。広場はいつもにぎわっていて、帰りはつい寄り道したくなる。駅周辺のおしゃれなお店を覗いてみたり、スキルアップの時間をすごしたり、毎日が充実してきた。

中野駅周辺の商店街で働く商店主

- 自分のお店を持ち、商店街の世話役もしている。自分の店には他にはない商品・サービスがあり、快適に買い物をしてもらえるよう工夫している。各商店街は切磋琢磨し、それぞれの特色を生かしたイベントなどでより広域からの集客につなげている。商店同士が連携して多言語のまち案内やICTを活用した商品情報の提供など、新たな顧客サービスに取り組んでいる。

働く

2020年中野駅周辺でのライフスタイル

楽しむ

中野駅周辺に観劇などに来る人

- まちに劇を見に来た。中野の顔となる大ホールから小規模な劇場まで多数あるため、多様な楽しみ方が出来る。観劇後の食事やおしゃべり、まちのそぞろ歩きがまた楽しい。

中野駅周辺に買い物に来る人

- 区外から買い物にきた。ネットでもなかなか手に入らないものがここに来れば比較して買える。南北通路などで各商店街の行き来がしやすくなったため、色々見て買い回りやすく、1日居ても飽きない。

中野駅周辺で学ぶ学生

- 新しくできた大学で先進的な研究をしている。豊かなみどりに囲まれた快適なキャンパスで、企業と共同で先端的な研究に取り組んでおり、商店街の協力を得て社会実験をしている。

暮す

中野駅周辺に暮らす子育て世代

- 周辺に住んで子育て中。気持ち良い街路や公園ができたり、駅直近での託児サービスも多様化するなど、子育て環境が良くなって嬉しい。大学や商店街と連携したカリキュラムに参加するなど、子供の成長に良い刺激になる機会もある。防災公園や病院も近いので、いつも安心していられる。

中野駅周辺に出かけるシルバー世代

- バスで中野駅周辺に出かけるのが楽しみになった。商店街が充実しているので買い物には困らないし、駅周辺の移動もバリアフリーになって楽になった。まちに活気があり、防犯面でも安心していられる。気持ち良い公園を散歩するだけでなく、大学の公開講座も受け始め、若い大学生やビジネスマンと交わって気持ちも若返った。

中野駅周辺まちづくりランドデザインVer.2

発行：平成21(2009)年10月

発行者：中野区まちづくり推進室拠点まちづくり分野

〒164-8501

東京都中野区中野4丁目8番1号

TEL 03-3228-8970

FAX 03-3228-5670

Email kyotenmatidukuri@city.tokyo-nakano.lg.jp

21中ま拠第395号